

# 自変量ロボット X Square Robot 調査報告

ChatGPT-5.5

## 要旨

2026年5月5日時点での結論は明快です。X Square Robot は、中国の具身知能スタートアップの中でも、二足歩行の派手なデモよりも「ロボットの脳」に資本と人材を集中させている代表格です。2026年4月20日に近い20億元のBラウンドが報じられ、翌21日には創業者がイベントで完了を認めました。A輪以降には、少なくとも投資家の顔ぶれとして、美团[1]、アリババ系、バイトダンス[2]、シャオミ[3]が順に入り、さらに紅杉中国（HongShan）[4]が複数ラウンドで主導側に回っています。これは単なる資金量の大きさだけでなく、「中国のネット大手が、X Square を具身知能の有力な“脳”企業として見ている」ことを示します。[5]

一方で、参照記事の印象ほど「一般家庭に完成品ロボットが入っていく」段階ではありません。現実には立ち上がっているのは、人間の清掃員とロボットを組み合わせた家庭保潔サービスであり、現場では速度の遅さ、動きのぎこちなさ、遠隔介入の必要性も残っています。したがって、今のX Square を正確に表現するならば、「家庭向けロボットの量産企業」というより、「家庭を実データ収集場に変えながら基盤モデルを鍛える、資本力のある長期戦プレイヤー」です。[6]

## 記事の主要論点の検証

参照記事の骨子は、公開情報とかなり整合しています。ただし、三つ補正した方がよい点があります。第一に、日本語記事では「自変量ロボット」という表記が見られますが、公式サイトと中国語の企業データベースでは「自変量机器人」が使われています。英語名はX Square Robot です。第二に、「4社が株主としてそろった」という言い方は、厳密には「投資家布陣として4社がそろった」と理解した方が安全です。第三に、家庭参入はすでに始まっていますが、その実態は自律家政ロボットの販売ではなく、人間との協働サービスです。[7]

会社の輪郭にも少し注意点があります。公式英語サイトは「2023年12月創業」と説明し、本社所在地を深セン[8]南山区として掲げています。一方で、公開データベースには深圳法人と済南法人の両方が現れ、深圳法人の設立時期は2023年9月、36Krのプロジェクトページでは済南法人を工商主体として2023年12月設立としています。つまり、ブランド年表と登記年表は完全には一致しておらず、外部から見ると複数法人で事業を走らせている可能性が高い、というのが現実に近い見方です。[9]

創業者兼 CEO の王潜[10]は、清華大学と南カリフォルニア大学で学び、米国で量的運用ファンドも運営した後、2023年に帰国して起業したと複数メディアが伝えています。本人発言ベースの色彩は強いものの、同社の戦略が「まずハードを売る」ではなく「長期の基盤モデル競争に賭ける」方向にぶれていないことは、創業者の経歴とも整合しています。[11]

## 資金調達と株主構図

大型ラウンドを時系列で追うと、2025年5月のA輪は美团[1]主導、同年9月のA+はアリババ系のアリババクラウド[12]主導、2026年1月のA++はバイトダンス[2]と既存投資家が参加、2026年2月には自動車系産業資本による数億元の追加調達、そして4月のBはシャオミ[3]戦略投資部門と紅杉中国（HongShan）[4]主導、という流れです。A以降だけを見ても、X Squareの資金調達は「基盤モデル」「本体」「量産・実装」のすべてを同時に押し上げる構えになっています。なお、シャオミ自身もEV工場の人型ロボットの実装試験を進めており、今回のBラウンドは受け身の財務投資というより、ロボット生態系づくりの一環と見る方が自然です。[13]

ただし、「4大ネット企業が同じ株主名簿に並んだ」という表現には注意が必要です。公開の登記記事で直接追えるのは、2026年2月時点で済南法人にアリババクラウドが新株主として加わったことまでで、他社については主として資金調達報道から確認できます。したがって、より厳密には「投資家一覧として4社がそろった」と表現するのが安全です。さらに、自社PRは2026年4月2日時点で累計調達額を約2.8億ドルとしていましたが、その後に近い20億元のBラウンドが報

じられました。つまり、B 後の最新累計調達額は、少なくとも現時点では会社から一本化して公表されていません。ここは参照記事より慎重に読むべき点です。

[14]

## 技術と製品

X Square の技術戦略は一貫して「物理世界の基盤モデル」です。公式サイトは自社を、中国で早期にエンドツーエンドの汎用具身基盤モデルを実現した企業群の一つと位置づけています。中心にある WALL-A は、知覚・理解・行動を一体でつなぐ 10B 級モデルとして説明され、外部取材でも、世界モデルと VLA を別モジュールでつなぐのではなく、より強く統合した枠組みを志向していることが語られています。要するに、X Square は「目」「言語」「手」を別々に作り込む会社というより、「物理世界を一つの学習系で扱いたい会社」です。[15]

この路線は、公開面でもかなり明確です。2025 年には WALL-OSS を開放し、Hugging Face[16] の LeRobot に統合されました。文書上は、Uni-CoT、MoE アクションヘッド、二段階学習などを備えたオープンな具身基盤モデルとして整理されています。さらに 2026 年 4 月 21 日には WALL-B を発表し、WUM (World Unified Model) と呼ぶ新アーキテクチャで、視覚・言語・動作・物理予測を最初から同じ系で学習させると説明しました。同社はまた、CVPR 2026 workshop の ManipArena にも深く関与し、20 の真機タスク、188 時間の実ロボットデータ、クラウド経由の遠隔真機評価を掲げています。もっとも、ここは会社主導のエコシステム形成策でもあるため、「有力な取り組み」ではあっても「業界標準として定着済み」とまでは言えません。[17]

製品面では、二足歩行よりも“使える輪式ヒューマノイド”に寄せた設計が目立ちます。主要ハードは次の三つです。

- **Quanta X1** は研究・教育用途寄りの輪式双腕機で、身長 97cm、20 自由度、稼働 4~6 時間、0~1m の作業高を持ち、遠隔操作・データ収集・モデル検証のプラットフォームとして位置づけられています。[18]

- **Quanta X2** は家庭サービス、商業清掃、物流選別などを対象にした輪式仿人型で、身長 164cm、62 自由度、片腕定格 6kg、双腕最大 25kg、作業高 0 ~2m を公称し、X1 よりはるかに“現場投入”色が強い仕様です。[19]
- **ArtiXon Hand** は 20 自由度、15 アクチュエータ、1kg 未満、指先触覚付きの五指ハンドで、柔らかい物体や精密把持を狙っています。触覚や巧緻性を内製で押さえようとしている点は、同社が「脳」専門ではなく、必要なハードまで自前化したい企業であることを示します。[20]

## 事業化と家庭参入

商業化で最も重要なのは、2026 年 3 月に 58 同城[21] 系の家政プラットフォームと始めた家庭保潔サービスです。最初は深センで始まり、その後は北京にも拡大し、3 時間 149 円で人間の清掃員とロボットがセットで入る形になっています。分業はかなり明確で、ロボットはリビング中心の片付け、表面清掃、ごみ回収、靴や玩具の整理などの構造化しやすい仕事を担当し、人間側は顧客対応や台所・浴室・寝室の深い清掃を受け持ちます。58 側が公称する 4,500 万家庭超・400 万人超の家政ワーカー基盤を考えると、この提携は単なる売上案件というより、家庭データを継続回収する“流量の入口”でもあります。[22]

現時点の実力は、はっきり言えば「役に立つが、まだ置き換えには遠い」です。2026 年 4 月 21 日時点で 50 超の家庭、4 月 27 日時点でほぼ 100 家庭へサービスしたと伝えられる一方、利用者の主な不満は速度とぎこちなさで、故障や作業失敗時には遠隔介入も入ります。会社側も、物の置き場所を間違える、途中で止まるといった誤りがあることを認めています。そのうえで、4 月 21 日の発表会以降は、100 を超える実家庭データを使って学習した WALL-B を、5 月 25 日を目標に新世代機へ載せて実家庭へ入れる計画を示しています。ここまで読む限り、家庭参入は“販売”より“学習速度の加速”が主目的です。[23]

同社は 4 月 2 日の自社発表で、教育、ホスピタリティ、高齢者ケアなどで初期収益が出始めているとも述べましたが、売上規模は開示していません。現時点で第三者が具体的に追いやすい案件は、やはりこの家庭保潔の実証です。したがって、今の X Square の事業モデルは、完成した家庭用執事ロボットの提供ではなく、

人間を安全弁にした B2B2C 型の実証兼データ収集パイプラインと捉えるのが最も正確です。これは推測ですが、同社の本当の商品は当面「清掃サービスそのもの」より「家庭で改善し続けるロボット基盤モデル」だと見るのが自然です。[24]

## 競争環境と総合評価

X Square の追い風はかなり強いです。2026 年の中国政府活動報告は具身知能を将来産業に明記し、当局側の説明では 2025 年末時点で国内の人形ロボット整機企業は 140 社超、製品は 330 超、さらに 2026 版の標準体系も公表されました。つまり X Square は、政策が促進し、競合も密集する、市場立ち上がり期のど真ん中にいます。言い換えると、資金面の追い風は大きい一方、差別化できなければ急速に埋没し得る環境でもあります。[25]

その中での立ち位置は、Unitree[26] のような「量産・本体先行」とも、Linkerbot[27] のような「器用な手の部品王者」とも違います。X Square が賭けているのは、輪式仿人型の実用機を早く現場へ入れ、家庭・物流・商業清掃などからデータを回収して“脳”を伸ばすことです。これは公式仕様と事業展開から読み取れる推測であり、二足歩行の見栄えより、可用性と反復学習を優先する設計思想を示しています。なお、Unitree は 2025 年に 5,500 台出荷・世界シェア 32.4% を開示しているのに対し、X Square は出荷台数や売上規模をまだ示していません。この差は、X Square が“量産の勝者”ではなく“モデルとデータの勝者候補”であることを逆に物語っています。[28]

参照記事の骨子は、したがってほぼ正しいです。X Square は実際に大型調達を進め、4 大ネット企業クラスの投資家を引き寄せ、家庭向け保潔サービスにも踏み出しました。ただし、その実態は「一般家庭への本格参入が加速した」というより、「一般家庭を学習環境にした、資本力のある長期戦が始まった」と捉える方が正確です。現段階で証明されたのは、家庭にロボットを入れる胆力と資金力、そして人間との協働モデルです。まだ証明されていないのは、遠隔介入なしでの安定稼働、十分な ROI、家庭内プライバシーの実効的統制、そして大規模量産です。なお、会社側は 4 月 25 日時点で、画像のリアルタイムマスキング、同意後のみ

起動、第三者へのデータ非共有を掲げていますが、独立監査や外部認証までは確認できませんでした。[29]

今後の観察点は三つに絞れます。第一に、5月25日前後のWALL-B搭載機が予定通り家庭へ入るか。第二に、作業速度と成功率が数週間単位で改善するか。第三に、Bラウンド後の公式累計調達額、持分変動、売上指標がどこまで開示されるかです。ここが開いてくれば、X Squareは「話題の新興企業」から「中国具身知能の基盤モデル企業」へ一段進みます。逆に、家庭内実証が人手依存のまま伸びないなら、四巨頭出資は“未来の期待値”にとどまります。[30]

## 最近の関連業界報道

X Squareを取り巻く競争環境は、上場、部品大型調達、家庭向け実装といった動きが同時進行で変化しています。[31]

navlist  最近の関連業界報道

turn27news35,turn41news18,turn41news25,turn41news29

---

[1] [25] [https://www.spp.gov.cn/spp/tt/202603/t20260313\\_723952.shtml](https://www.spp.gov.cn/spp/tt/202603/t20260313_723952.shtml)

[https://www.spp.gov.cn/spp/tt/202603/t20260313\\_723952.shtml](https://www.spp.gov.cn/spp/tt/202603/t20260313_723952.shtml)

[2] [9] [15] <https://x2robot.com/en/about>

<https://x2robot.com/en/about>

[3] [10] [11] [16] <https://m.36kr.com/p/3312504088306690>

<https://m.36kr.com/p/3312504088306690>

[4] [30] [https://www.cs.com.cn/ssgs/01/2026/04/23/detail\\_2026042310006130.html](https://www.cs.com.cn/ssgs/01/2026/04/23/detail_2026042310006130.html)

[https://www.cs.com.cn/ssgs/01/2026/04/23/detail\\_2026042310006130.html](https://www.cs.com.cn/ssgs/01/2026/04/23/detail_2026042310006130.html)

[5] [29] <https://eu.36kr.com/zh/p/3774502008963841>

<https://eu.36kr.com/zh/p/3774502008963841>

[6] [21] [23] <https://www.reuters.com/world/asia-pacific/after-running-dancing-chinese-robot-firms-target-household-chores-2026-04-21/>

<https://www.reuters.com/world/asia-pacific/after-running-dancing-chinese-robot-firms-target-household-chores-2026-04-21/>

[7] <https://x2robot.com/>

<https://x2robot.com/>

[8] [12] [28] [31] <https://www.reuters.com/world/asia-pacific/unitree-plans-shanghai-ipo-testing-interest-humanoid-robots-2026-03-20/>

<https://www.reuters.com/world/asia-pacific/unitree-plans-shanghai-ipo-testing-interest-humanoid-robots-2026-03-20/>

[13] <https://finance.sina.cn/tech/2025-05-12/detail-inewhpf1529098.d.html?oid=%E9%AB%98%E4%BB%BF%E5%A5%A2%E4%BE%88%E5%93%81%E4%BB%A3%E7%90%86%E8%BF%9B%E4%BB%B7%E5%A4%9A%E5%B0%91%E3%80%88%E5%BE%AE%E4%BF%A1198099199%E3%80%897YBB&vt=4>

<https://finance.sina.cn/tech/2025-05-12/detail-inewhpf1529098.d.html?oid=%E9%AB%98%E4%BB%BF%E5%A5%A2%E4%BE%88%E5%93%81%E4%BB%A3%E7%90%86%E8%BF%9B%E4%BB%B7%E5%A4%9A%E5%B0%91%E3%80%88%E5%BE%AE%E4%BF%A1198099199%E3%80%897YBB&vt=4>

[14] <https://www.stcn.com/article/detail/3771880.html>

<https://www.stcn.com/article/detail/3771880.html>

[17] <https://huggingface.co/docs/lerobot/walloss>

<https://huggingface.co/docs/lerobot/walloss>

[18] <https://x2robot.com/product/68ad78759d9a1f1ecd404a0e>

<https://x2robot.com/product/68ad78759d9a1f1ecd404a0e>

[19] [27] <https://x2robot.com/product/quantum2>

<https://x2robot.com/product/quantum2>

[20] [26] <https://x2robot.com/product/68ad9a319d9a1f1ecd40c31d>

<https://x2robot.com/product/68ad9a319d9a1f1ecd40c31d>

[22] <https://www.prnewswire.com/news-releases/x-square-robot-and-58com-launch-chinas-first-home-cleaning-robot-service-in-shenzhen-302717188.html>

<https://www.prnewswire.com/news-releases/x-square-robot-and-58com-launch-chinas-first-home-cleaning-robot-service-in-shenzhen-302717188.html>

[24] <https://www.prnewswire.com/news-releases/x-square-robot-hosts-inaugural-eaidc-2026-advancing-real-world-deployment-of-embodied-ai-302732507.html>

<https://www.prnewswire.com/news-releases/x-square-robot-hosts-inaugural-eaidc-2026-advancing-real-world-deployment-of-embodied-ai-302732507.html>